

機関推進プロジェクト報告書

古典一次資料上における知識DB構築支援の試み

センター准教授 廣田輝直

(1) プロジェクト全体計画（概要・目的・意義など）

当センターが蓄積してきた古典一次資料のさらなる活用のためには、スキャン画像の電子テキスト化作業を経て、そこに研究者による知識を関連づけてゆく必要がある。当プロジェクトでは、一例として当研究所書庫で未整理となっていた倉石武四郎博士の講義ノートを対象とし、画像、テキストデータ、注釈などを継続的に蓄積してゆくためのデータベースの構築を目指した。

(2) 今年度の進捗状況

対象とした講義ノートは、日中学院所蔵の倉石武四郎博士旧蔵漢籍が、倉石文庫として当研究所図書室に収められた際、共に研究所に引き渡されたもので、博士の昭和六年から二十六年ごろまでの京大、東京帝大、東大文学部での講義に際し執筆されたものである。講義ノートという形をとりながら、その内容は何度も加筆を加えられた嚴重極まるものであり、現在にも十分に適用しうる学術的成果を含んでいる。特に博士の戦前から戦後直後の業績については『目録学』等ごく一部を除き著書としてはまとめられておらず、これら講義ノートの刊行が期待されていた。

本年度は、ノートの全39冊、5454枚の画像撮影・スキャンを行いアーカイブとして公開した。また、その詳細については、センター機関紙「明日の東洋学」に、「倉石武四郎講義ノートデータベースについて」として解説記事を掲載した。一部のノートについては、これまで20年以上蓄積されてきた、テキスト起こしデータが存在し、アーカイブでは、画像と共にこのテキスト起こしされたデータを保持できるようにした。簡易に画像、テキストデータを追加し、内外の協力者により継続して追加、校正が可能なようシステムを構築した。著作権の博士の御遺族と連絡をとり、講義ノートの全文字データと書影について、ネット上公開学術的利用の許諾書を得た。また、講義ノートのうち『支那学の発達』についての出版の許諾を得た。

(3) 公開済の（または予定の）具体的な成果物

URL <http://kuraishi.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2012年4月から公開